

スポーツを通じた 女性のエンパワーメント プロジェクト

2022年より、S.C.P. Japanはシルバーパートナーの野村ホールディングス株式会社と協働して、大学生女性アスリート向けエンパワーメントプロジェクトをスタートしました。

2023年からは、全6回のシリーズ研修として、公益財団法人ジョイセフにもご協力いただきながら、プログラムを展開しています。



男女平等の達成度
146か国中 **125** 位

このプロジェクトをスタートした理由と目的

146か国中125位。これは「経済参画」「教育」「健康」「政治参画」という4つの分野での、各国のジェンダー格差を評価した「世界経済フォーラム」による『グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート2023』で発表された日本の現在地です。日本はジェンダー平等において多くの課題を抱えており、特に「政治参画」と「経済参画」におけるスコアの低さが指摘されています。女性の管理職や政治参加率は著しく低く、社会に女性の声が反映されづらい中で、平等な機会や選択肢を得づらいのが現状です。このシリーズ研修では、大学生女性アスリートを対象に、テーマごとの正しい知識を提供し、共に考えることで、主体性を持って自分らしい豊かな人生を選び取っていくための力を養います。

核となる3つの分野②

健康 性と生殖に関する自己決定権とそのための包括的性教育の不在

性と生殖に関する選択も、女性が自分らしい人生を歩んでいくために不可欠な要素です。私たちは、性と生殖について、一人ひとりが適切な知識と自己決定権を持ち、自分の意思で必要なヘルスケアを受ける権利を持っています。*

国際的には、UNESCOのガイダンスに基づく「包括的性教育(ジェンダー観や対等な人間関係の築き方、性的同意、性の多様性など、幅広い内容を発達段階に応じて学ぶ)」が推進される一方で、学習指導要領に基づく日本の性教育で取り扱われる内容は非常に狭く、不十分であることがしばしば指摘されています。法的に認可されている避妊法も限定的であり、避妊効果が高く女性の意思でコントロールできる避妊法は入手困難かつ高額です。

*引用：ジョイセフ「知ってる？わたしのSRHR」https://www.joicfp.or.jp/jpn/known/about_srhr/what_is_srhr/

核となる3つの分野①

教育 学校教育以外の教育、STEM領域、アントレプレナーシップ教育の格差

日本では義務教育における教育のジェンダー格差はあまり見られないものの、見えないところで教育のジェンダー格差は拡大しています。社会人になって学校教育以外の学びに参加した人の割合は男性が48%に対して女性は35%と低いです。

自然科学、技術、工学、数学(STEM)領域を専攻する女性は少なく、日本では2019年時点で16%であり、OECDの中で最も低い国となっています。*1 また、女性の起業家活動も男性と比べて低く、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育も必要とされています。*2

*1 : OECD「Education at a Glance 2021」

*2 : Global Entrepreneurship Research Association「Global Entrepreneurship Monitor 2022/2023 Global Report: Adapting to a "New Normal"」

核となる3つの分野③

経済 経済的自立のための知識や経験の格差

現役アスリートで お金に対する不安を抱えている人の割合 約 **90%**

現役アスリートで 資産形成としての投資経験のない人の割合 **75%**

マイナビアスリートキャリアによる
2022年の調査より

自分らしい人生を描くために「経済的自立」は重要な要素です。しかし、現役アスリートの多くがお金に対する必要な知識を持っておらず、不安を感じています。また、投資経験のない人の半数以上が「何から始めたら良いかわからない」ことを理由として挙げています。また、女性は男性と比べて、平均して22.5%収入が低いというデータもあります。* 妊娠・出産といったライフイベントの影響をより強く受けるため、個々人のライフプランに合わせた多様な働き方や計画的な資産形成の知識を身につけておくことが大切です。

*内閣府男女共同参画局「男女間賃金格差(我が国の現状)」

関連団体紹介

主催



一般社団法人 S.C.P. Japan

「スポーツを通じて、一人ひとりが自分らしく歩んでいける未来をつくる」をビジョンに掲げ、スポーツを通じた共生社会づくりを行っています。①運動遊びを通じた共育事業、②教育・研修事業、③交流事業を通じて、障がい、女性・女児、LGBTQ+、国際協力、セーフガーディングといった幅広い分野にアプローチしています。

主催

NOMURA

野村ホールディングス株式会社

約90の国籍の社員が働く野村グループでは、多様性を尊重した人材の育成は最重要課題の一つとしています。国籍、人種、性別、性自認、性的指向、信条、社会的身分、障がいの有無等を理由とする一切の差別を行わないことを「野村グループ行動規範」に定め、社内外を問わず、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DEI)に取り組んでいます。

協力

女性、選択できる世界を。

JOICFP

公益財団法人ジョイセフ

すべての人が自分の意思で生き方を選択できる世界をめざして、基本的人権であるSRHR(Sexual and Reproductive Health and Rights:性と生殖に関する健康と権利)を推進する、日本生まれの国際協力NGOです。とりわけ、性による健康格差とジェンダー不平等に苦しむ女性を支援するとともに、コミュニティをエンパワーする活動を行っています。

助成団体

ONSIDEFUND

本プロジェクトは、スポーツをツールとしてジェンダー平等をグローバルに推進することをめざす、Women Win(オランダ)が運営するONSIDEFUNDからの助成を受けて実施しています。

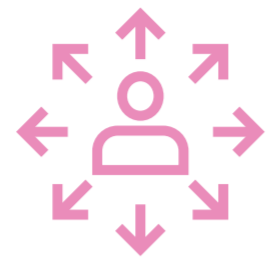
全6回 シリーズ研修

各回のテーマと内容

2023年度は、筑波大学女子サッカー部の皆さんと研修を実施しました。

1. エンパワメント

S.C.P. Japan



「女性が主体性を持ち、一生涯健康で豊かに生きていくための知識やスキルを学ぶこと」というプログラムの目的とその背景を共有。エンパワメントは、一人ひとりの選択肢を広げることで、力を獲得していく過程のことを言います。「教育」「健康」「経済」の3つの視点から知識やスキルを学ぶことで、自己肯定感や自信を高め、内なるパワーを引き出します。

2. 多様性と私の権利

S.C.P. Japan



アメリカやスウェーデン、ザンビアなどにおける女性の権利やスポーツの現状に関する海外事例を基に、自分の権利を知ることの大切さや女子サッカーの中にある多様性について紹介。SOGIE (Sexual Orientation: 性的指向、Gender Identity: 性自認、Gender Expression: 性別表現)に関する自分らしさを知り、自分や周りの人の多様なあり方を尊重することの重要性を伝えます。



3. 自分の将来とお金の話

野村ホールディングス株式会社 DEI 推進室



20年後の将来を見据えたお金の話と、そのために必要な資産形成やライフプランニングについて解説します。学生たちがワークシートを使い、自分の人生を思い描きながら、資産形成について深く考える時間を提供します。

4. セクシュアルリプロダクティブヘルスライツ (SRHR) / 性と生殖に関する健康と権利

公益財団法人ジョイセフ



学生があまり深く触れる機会のない、セックス、避妊、子宮頸がん、性感染症、パートナーシップなどについてお話しします。また、グループワークを通じて学びを深め、Love, Act, Decide Yourself! (自分を大切にす、自分から行動する、自分らしい人生を自分で決める!) という意味の「I LADYist 宣言」を参加者がそれぞれ考えます。



5.アントレプレナーシップ ~自分の人生を自分でつくる

起業家・アスリートなど

起業するまでの経験ややりたいことを探す時の考え方、決断する時の軸など、それぞれの講師の経験を基にお話しします。「自分でオーナーシップを持って人生をつくっていく」というマインドを持つためにはどうしたらよいかについて、ヒントを得るためのセッションです。



6. まとめのセッション

S.C.P. Japan



自分らしく生きていくには「個人の選択肢を増やすために自分に何ができるか」を考えることが重要です。さまざまな知識やスキルを身につけることで選択肢が増え「人生を自分でつくる」機会につながっていくことを再確認する時間を設けます。最後に「私が私らしく人生を歩むために大切にしたいこと」をそれぞれがシートに記入。仲間とも共有し、プログラムを締めくくります。

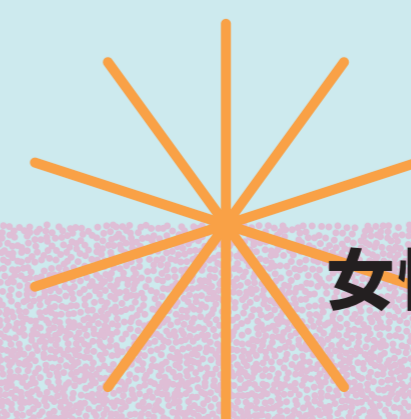


参加した学生の声

お金は身近なようで無関心だったので、もっと考えないといけないなと思いました。今後はさまざまな面からお金の目を向けていきたいと思いました。

セクシュアルリプロダクティブヘルスライツ (SRHR) について興味がある人、大切だと思っている人はとても多くいると思います。ただ、学ぶ機会がない、自ら参加するまでもないな.. と思い、触れていない人が日本には多い気がします。それはもったいないし、この現状を変えたいと感じました。

将来のことを考えるという、やはり就職や進学などのことばかりを考えてしまいましたが、実際に就職なり進学なりをした後の生きる術、生きていくために必要な知識を学ぶことができました。このようなことを学ぶ機会がもっと身近に増えてほしいと思いました。



スポーツを通じた
女性のエンパワメント
プロジェクト